

2020年度

国 際 学 部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領	・ ・ 3
専門ゼミナール選択指導について	・ ・ ・ ・ ・ 4
2020年度専門ゼミナールⅠ一覧表	・ ・ ・ ・ ・ 6
2020年度専門ゼミナールⅠ概要	・ ・ ・ ・ ・ 8
専門ゼミナール志望調査票	・ ・ ・ ・ ・ [別配付]

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションを次の要領で開催します。

○日時： 2019年9月13日（金）13：00～16：30

○場所： 6401教室

○内容： 国際学部の現2年生に、来年度から履修する専門ゼミナールの内容や選択方法について説明します。

○当日の予定

13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

*スケジュール

志望調査	志望調査票 配布	研究室訪問・ ゼミ見学等期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
期日	9/13(金)	9/13(金)～ 10/18(金)	10/18(金) 16：40 まで	11/13(水) 16：40 まで	11/29(金) 16：40 まで

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2019 年度専門ゼミナール選択指導について—

2019/9/13

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（11 名）、最大定員（最も大きい場合で 18 名）**を定めます。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) 1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者ゼロの専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) 1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、**専門ゼミ選択は所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**皆さん方が志向する専門領域によっては、他学科所属の先生方のゼミが適している場合が十分に考えられますので、web 情報を十分に精査してください。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となり、ゼミを指導していく上で目標が達成されない恐れがあるといった理由がある場合に限って、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を web 情報で公開のうえ、教員からオリエンテーションでも説明をします。

2. 専門ゼミ選択指導のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) **各専門ゼミに関する情報を 9 月 6 日（金）より web ペースで公開します。**皆さんはそれを閲覧し、確認しておいてください。
- (2) **専門ゼミオリエンテーションを 9 月 13 日（金）に実施します。【6401 教室予定】OT では全てのゼミ紹介を聴いてください。途中退出は禁止です。OT の最後に「専門ゼミ志望調査票[第 1 志望]」を配布するとともに、教務委員会よりスケジュール、諸注意を伝達します。**

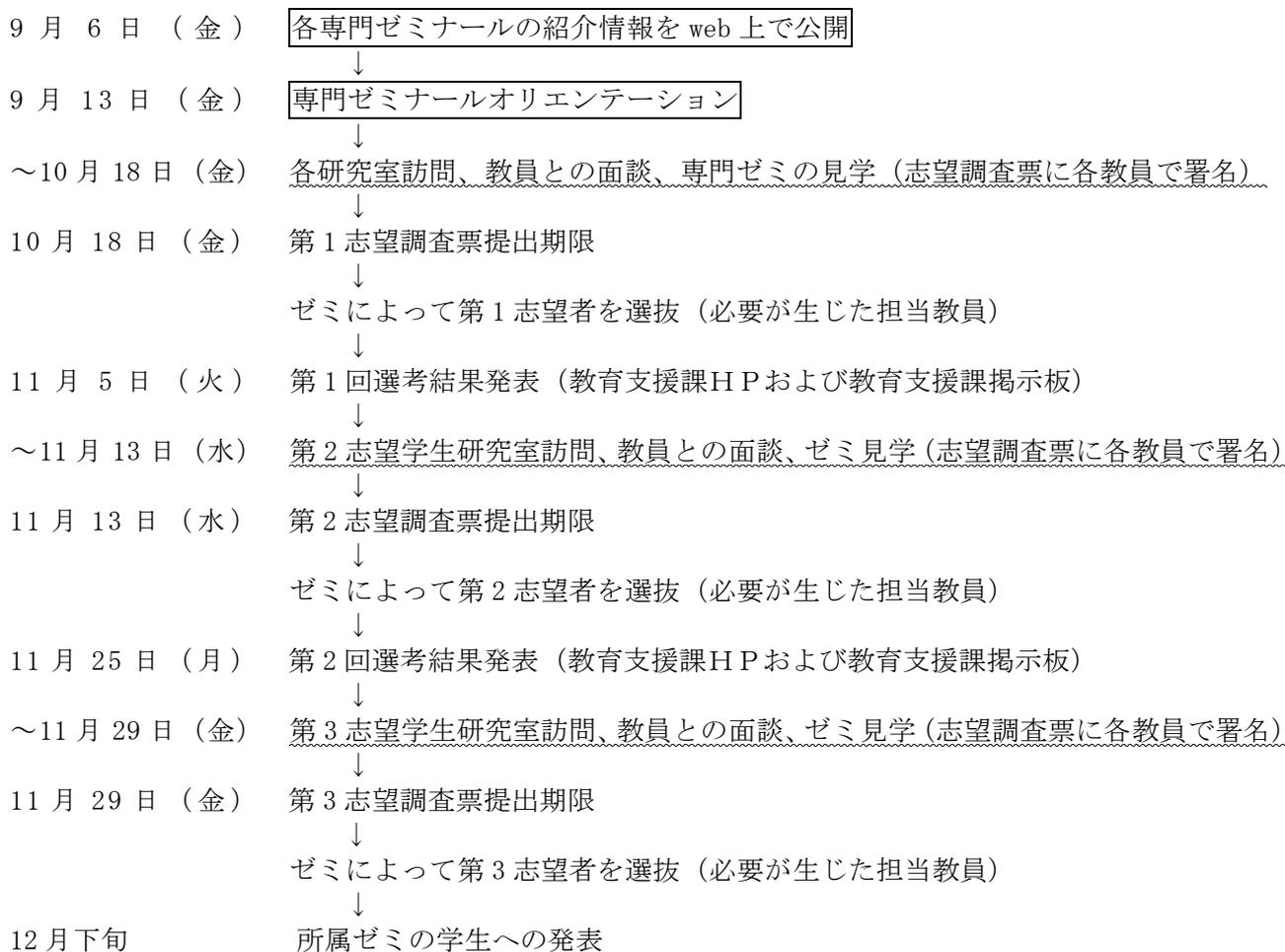
<当日の予定> 午後：13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介

+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

- (3) 選択指導のための時間を長く取り、複数の研究室訪問、ゼミ見学などが出来るようにスケジュールを設定しています。皆さんは、志望調査票に所属を志望する担当教員からのサインをもらった上で、10 月 18 日（金）までに調査票を教育支援課まで提出してください。
- (4) 学生諸君は (3) の期間中、志望する専門ゼミの見学、研究室の訪問などを積極的に行い、先生方と話し合うなどして情報をさらに集め、志望ゼミを選択するように努めてください。その際、訪問した研究室の教員、所属を志望する教員からのサインをもらってください。特に**第 1 志望ゼミの教員のサインが無い調査票は無効となりますので注意してください。**当該の先生が長期不在の場合には各学科長（国際理解学科：齊藤先生、国際観光学科：菅原先生）、もしくは教務委員長（小島）まで相談に来てください。

(5) その他、疑問等がある場合には教育支援課窓口、あるいは小島先生まで相談に来てください。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



専門ゼミナール I 一覧

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室	シ ジ
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	11名	6213	8
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	英語教職課程の学生を主な対象とするため、教職科目全般	11名	6309	9
3	生田 祐子	理解	English for Global Engagement (国際貢献と英語)	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解と観光の関連科目	11名	6407	10
4	奥田 孝晴	理解	「国際学の鍋」づくり:「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。	特になし(シラバス参照)	11名	6406	11
5	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズム・デザイナーになろう!	地域プロジェクト演習、国際学研究A	12名	6307	12
6	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)	11名	6418	13
7	北野 マグダ	理解	Culture in Media	ESP F, debate and discussion English electives	13名	6412	14
8	黒沢 直樹	観光	ホテルマネジメント及びチェーンホテルオペレーション	特になし	12名	6411	15
9	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論	12名	6317	16
10	椎野 信雄	観光	<社会>とは何だろうを、自分なりに理解し、日常生活を送っていくための知識を身につけ、「社会人」「市民」として社会に生きていくこと	特になし(シラバス参照)	11名	6314	17
11	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	英語オーラル・コミュニケーション論、英語とメディア	12名	6315	18
12	菅原 周一	観光	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業(エアライン、ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む)に関する調査・研究	「国際観光と会計」	15名	6415	19
13	杉山 富士雄	観光	「食う・寝る・遊ぶ・観る」の観光経済学	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目	11名	6212	20
14	孫 美幸	理解	多文化共生社会における多様な学び	特になし	12名	6312	21
15	千葉 克裕	理解	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など	11名	6304	22
16	那須 一貴	観光	経営管理、マーケティング、ブランディング、コンサルティング	特になし	15名	6409	23
17	林 薫	理解	「持続可能な世界の実現」	「開発と国際協力」「資源と国際協力」	11名	6306	24

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目	受入 上限	研究室	ページ
18	黛 陽 子	観光	* サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み * ヘリテージ・インタープリテーションの技術と取組みの精神の学び 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策」	インタープリテーション論(理論・応用)	12名	6417	25
19	丸 山 鋼 二	理解	東アジア日中韓三カ国の関係(peace and war in East Asia)を考える	英語コミュニケーション論、教育原理か特別活動論、紛争と国際協力、日本の地理と歴史、現代思想、地域研究(東アジア)、現代中国論など (シラバス参照)	12名	6408	26
20	宮 原 辰 夫	観光	ゼミ生と相談して決定する	特になし	11名	6405	27
21	本 浜 秀 彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など	11名	6311	28
22	山 崎 裕 子	理解	世界の文化と宗教を哲学する	特になし	11名	6410	29
23	山 田 修 嗣	理解	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～	特になし	11名	6209	30
24	渡 邊 暁 子	理解	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード：開発人類学、貧困、格差、社会的排除、人の移動、マイノリティ、コミュニティ	「文化人類学」、「国際協力論」、「紛争と国際協力」、「開発教育論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部に関連科目	12名	6305	31
25	A	理解	外国語教育		18名	—	32
26	B	観光	観光学		18名	—	33
27	C	観光	ホスピタリティ		18名	—	34
28	D	観光	観光学		18名	—	35

※ 説明会当日の説明順序とは関係ありません。

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、地歴科教育法Ⅰ、公民科教育法Ⅰ、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習 (中学) [秋学期] 道德教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、地歴科教育法Ⅱ、公民科教育法Ⅱ、教職実践演習、(越谷 特別活動)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道德教育を中心として、教育学全般に関心があります。 ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関することでしたら、何でもOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。 これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある教師を目指して、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	①3年春学期は、幼稚園児や中学生等との交流学習の企画・準備・実践を行います。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④卒論執筆と同時に、幼稚園児や特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、1年教職課程学生に「楽校」実践、柳島卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「幼稚園児から教育長まで」ふれあって、教師としての実践的指導を養っていきます。
留意事項 (Requirement など)	以下の2つの活動に必ず参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援 ②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育 外遊びで形成される「共生」能力 など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「人を愛する教育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切に、実際に「幼稚園児から教育長まで」ふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、絶対教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。(4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6309
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日
ゼミの開講時間	木曜4限(3年生)、木曜5限(4年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	原則として月・火・水・木は大学にいます。時間は研究室前の予定表で確認してください。研究室でゼミ生とも話をしてください。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を主な対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業を大きな枠組みの中で捉え、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。日本の英語教育は、2020年に大きな転換期を迎えます。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきましょう。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします。並行して、イベント(中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、海外の大学との合同ゼミなど)に向けての準備をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習指導、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組ましましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、11名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。メンバー決定後に、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶよい英語授業の作り方」「生徒の学力差に応じた英語指導法」「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語教育」など
所属ゼミ生(先輩)からの一言	阿野ゼミでは大きく変革していく英語教育について日々研究しています！ゼミナールでは、小学校や中学校、高校など実際の教育現場に赴き、授業見学や英語セミナーなどの実践的な学びを通して、教師になるための基礎を築くことができます。また、ゼミ生同士の仲も良く、先輩後輩一緒になって楽しく学びあえるとても良い環境です。是非、阿野ゼミの一員としてこの最高の環境の中で共に楽しく学びましょう！(4年ゼミ長 上野仰) 阿野ゼミでは、日々変化していく英語教育に沿って、常に新しい学びをしています！また学内の活動だけでなく、学外において実際の教育現場に赴く機会が多いため、生の教育に触れることができます。ゼミの活動を通して、様々な人と出会い、沢山の考えや価値観に触れることで視野が広がり自分自身を成長させることができます！同じ目標を持ってお互いを高め合うことができる、最高の仲間たちにも出会えます！阿野ゼミに入り、今まで以上に充実した大学生活を送ってみませんか！？(3年ゼミ長 城田明奈)

担当者名	生田 祐子 (いくたゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp (LINE での問い合わせも可)
研究室	6407 (6号館4階)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4時限と 5時限 (4時限は 3211 教室・5時限は研究室の予定) ゼミ見学ができる日: 9月27日・10月4日・10月11日
担当科目	英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法 IV 応用演習 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	火曜日・水曜日・金曜日 12:40-13:15 *他の時間はメールで予約ください。 *研究室ドアに研究室訪問とゼミ見学ができる日時の詳細を掲示します。
ゼミのテーマ	English for Global Engagement (国際貢献と英語)
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、グローバル化する社会と言語の諸相を学びつつ、英語教育から国際協力の仕事まで、様々な分野で国際貢献ができる 英語コミュニケーション力 を養います。世界の標準は多言語社会で、価値観や文化も多様です。次代を担うみなさんには異なる言葉話す人たちと共に生きていく「 英語によるグローバルな対話力 」も求められます。模擬国連活動に参加し、世界の国々や民族と相互理解を深める方法を議論しつつ、実践的に高度な英語を使う環境を経験します。根幹に流れるゼミのテーマは 国際理解と平和 、英語はゼミ内言語= EMI (English as a Medium of Instruction) です。 <u>こんな学生におすすめ</u> : 国際理解教育の視点から英語教育を担う教師を目指す、グローバル+平和教育や日本語教育に関心がある、グローバル企業で働きたい、通訳や翻訳を仕事にしたい、国連や JICA のような国際機関にチャレンジしたい思いがある学生。
ゼミの進め方	3年生: 英語脳を鍛え、英語で呼吸する! 1. 英語による模擬国連(JUEMUN)活動: テーマは SDGs より 2020 年度の開催場所は京都外国語大学(春)を予定しています。 → 膨大な英語の資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. 国際機関や教育機関でのインターン、日本語教師・通訳ボランティア、英語教育、国際理解教育の研修への参加を奨励します。 3. 英検準1級/TOEIC800 点を目標とします (英語教職の学生は必須)。 4年生: 社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力 (観光も含む) 分野の卒論研究を指導します。日本語で執筆、発表は基本的に英語です。
留意事項 (Requirement など)	1.3年次 (5 セメスター) で「社会言語学」「通訳入門」「平和学」等を履修。 2.秋学期に行う合宿研修 (卒論中間発表・3年生課題発表) へ参加。 British Hills (福島県) または山中湖のカナダ系ペンションで開催予定。 学生主体で企画する研修も奨励しています。(2018 年パリ/2019 年広島)
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解と観光の関連科目
定員	卒論等の個人指導の時間を考慮し、最少人数の 11 名とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	英語による面接および TOEIC・CASEC・英検等の最高点の提出を求めます。
ゼミ受入決定者への指示	2 月のニューヨーク国連研修は、模擬国連の最大の成果を上げる大切な準備になりますので、参加を推奨します。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』 “Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリンガフランカになるための環境要因』 “Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	模擬国連の 3 日間とその準備期間の 3 ヶ月は短期留学以上の緊張感と達成感を味わい、英語を使って仕事をするレベルの目標が明確になりました。ゼミ友と切磋琢磨しつつ、英語圏への長期留学を目指しています。(3 年 K.I.)

担当者名	奥田 孝晴 (おくだ たかはる)
e-mail アドレス	okuda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6406 (時々、国際学部長室)
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4、木5
担当科目	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、大学院講座 [秋学期] 国際学研究C、開発経済論、国際理解と経済、大学院講座
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前にある予定表空き時間に訪ねてください。
ゼミのテーマ	「国際学の鍋」づくり： 「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。
ゼミの内容・メッセージ	今、私が取り組んでいる「国際学」の研究課題は以下のようなものです。さて、皆さんの「国際学」とはどのようなものでしょうか？ ①平和学の視点から、「核と市民社会」の問題を考えます。原爆、原発などに象徴される「核」の問題、それが地球市民社会に与える負の影響。また、世界や日本の安全保障にどのように絡んでいるかも考えています。 ②グローバル化・スタディーズの視点から「権力の非対称構造」としての中核—周辺差別問題を考えます。先進諸国と第三世界の関係、トウキョウと地方(たとえばトウホクやオキナワ)との関係はこの構造の「相似形」に過ぎません。この悪しき構造の研究を行います。 ③東アジア諸国・諸民族との共生をいかに図るかという課題。「東アジア共同体への道」を考えます。現在の東アジア諸国の間には「歴史認識の相違」、「領土問題」など様々な懸案が残されており、ますます進む経済的な相互依存とは真逆の敵愾心が強まっています。問題の多くは東アジアの歴史(特に近現代史)への無知や無理解に起因するところが大きいのではないのでしょうか。 ④「国際学の旅」をしましょう。「事件は会議室ではなく、現場で起きている」(どこかで聞いたセリフだが...)。国際学を学ぶ現場は世界・日本にたくさんあると思います。研究室と現場との往復運動を通して、「私たちの国際学」を作っていきましょう。
ゼミの進め方	基本、皆との話し合いで決めたいと思いますが、3年次は基本的文献の輪読、あるいは各自の研究発表に基づく意見交換を中心に、4年次は各自が取り組むべき知的課題を見出し、卒業論文を執筆します。またロッカショムラなど、適宜、「国際学の現場」を訪ねる旅を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは「知の共同体」です。共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。一方的なサービスを期待する「お客さん」はご遠慮ください。自身が「国際学鍋の具材」となって学ぼうとする人、それが最大・唯一の必要条件です。(まずは、お話をしましょうか...)
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえ、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場」を訪ねる旅に積極的に参加して欲しい。
定員	学外での研修活動を行うことなどをふまえて、11名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。(たぶん、選抜の必要もないと思いますが。) 選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。(期日は別途連絡します。)
代表的な卒業論文テーマ	「東アジア共同体の可能性」「日本人はなぜ無宗教なのか」 「テロリズム社会・求められる解決策」「読売巨人帝国主義批判」 「マイクロクレジットの日本への適用可能性に関する考察」 「眉の美学と『美意識』の歴史の変遷研究」「日韓歴史認識の差」 「第三世界の貧困とその克服への方策」など

担当者名	海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ)
e-mail アドレス	kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6307
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	毎週木曜日 4・5時限目 (原則として)
担当科目 ①～は開講セメスター	国際学入門①、新入生ゼミナール①、地域プロジェクト演習Ⅰ③、地域プロジェクト演習Ⅱ④、観光資源論④、国際学A④、エコツーリズム論⑤、地域のサステイナブル・デザイン論⑥、専門ゼミナールⅠ～Ⅳ、【大学院】サステナブル・ツーリズム特論、地域計画特論
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休み。まずはメールにてご連絡ください。
ゼミのテーマ	エコツーリズム・デザイナーになろう！
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは、行き過ぎた観光が生んだ弊害を解決するために20世紀後半に生み出された概念です。SDGsが求める観光のあり方を形にしたものと実現してきたコンセプトでもあります。本ゼミナールはエコツーリズムの理解を通して、これからの観光のあり方を考えるゼミナールです。学生は、①テキストをベースにした理論研究、②多くの地域でのフィールドワークを踏まえた事例研究、③複数の地域でのプロジェクトへの取り組みなどを通して学び、④プレゼンテーションによって自らの知見をより深いものに磨き上げます。地域振興、自然、人々との交流に関心があり、フィールドワーカーを目指す学生を歓迎します。
ゼミの進め方	<p>■基本的な流れ</p> <p>専門ゼミⅠ：理論研究、事例研究 専門ゼミⅡ：地域演習（「茅ヶ崎学」を中心に） 専門ゼミⅢ・Ⅳ：卒業研究と論文執筆（必須）</p> <p>■その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎・地元連携ボランティア（祭やイベントのサポート） ・各種プロジェクト ・学外プレゼンテーション（学生シンポジウム、学会等）
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の合宿（全員参加）の他、プロジェクトのフィールドワーク、有志参加による小旅行などがあり、経費がかかります。 ・個人課題として「一人旅」を課しています。
ゼミ履修に望ましい科目	地域プロジェクト演習③④、国際学研究A④
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	レポートを課し、面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	連絡の上、ガイダンスとプレゼミを開講します。
代表的な卒業論文のテーマ	各自調査フィールドを設けて研究しています。エコツーリズム、地域振興、震災復興、ユニバーサル、自転車、離島など多様。研究室に見に来てください。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	山・川・海・森などの自然やアウトドア活動が好きな学生、人と接することが好きな学生、何か夢中になっているものを持っている学生など多様な学生を心待ちにしています！／海津ゼミは地域との連携を重視しています。例えばお祭りに準備から参加することが出来ます。普段は楽しむ側として参加することが多いけれど、地域との関わりを感じることができ、イベントを運営することの大変さなどを学ぶことが出来ます。自分の目で足で直接体験することが多いので、より記憶に残るような活動が多いです。／海津ゼミはゼミ内で多くの経験や知識を得ることができるので目標を達成したり自分の関心を深めたり、自分のペースで学べます。／一気に忙しくなることがありますが、諦めずに頑張ることで絶対自分のためになります。／出費はあるけれど、それ以上の経験を自分次第で得ることができます。同じ目的を持った仲間と協力して地域の活性化を目指せる良い環境です。／海津ゼミはゼミを通していろんな地域へ行って地域の特徴を学ぶことができるアクティブなゼミです。一番体全体で学べてアウトドアなゼミだと思うので、地域好きな方、まちおこし、エコツーリズムに興味がある方、ぜひ私たちと一緒に楽しく学びましょう。／海津ゼミの魅力は、様々な地域プロジェクトに参加できることです。夏は先生紹介でインターンに、その他にも各種イベントやボランティア活動の案内も多いです。そのため忙しくはありますが、地域との関わりや、人との関わりを多く持つことができ、自分自身の視野を広く持てるようになると思います。

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	日本国憲法(第 2 セメスター)、法学(第 3 セメスター)、憲法(第 3 セメスター)、法と行政 A(第 4 セメスター)、法と行政 B(第 5 セメスター)、行政法 (経営学部、第 6 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜昼休み～3限、水曜 2限～昼休み
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	憲法学・行政法学の基礎知識をもとに、社会問題について調べ、ディスカッションします。憲法は、どこの国でも社会の基本となる法です。一方、行政法は皆さんにとって馴染みが薄いかもかもしれませんが、現代社会では「犬も歩けば行政法に当たる」という言葉があるほど、行政法が私たちの生活に浸透しています。皆さんが社会的関心を抱いている事柄は、きっとどこかで憲法と行政法に繋がっています。
ゼミの進め方	1 学年のゼミを二つのグループに分けます。 第 1 グループは、「憲法・行政法を使う仕事に就くこと」を目標にする人たちのグループです。公務員や行政書士を目指す学生が対象です。憲法と行政法のケーススタディを中心に進めます。 第 2 グループは、「特定の社会問題に関心があり、その問題を憲法・行政法の観点から考察すること」を目標にする人たちのグループです。個々人の関心のある領域や関心の度合いに応じて進め方を変えます。
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループが並行する関係で、開講時間が前後する場合があります。 ・3年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。 ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。 ・藤沢駅近くの子ども食堂のお手伝いをしています。各自の都合に合わせて参加してください。めやすは月に 2～3 回程度です。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
定員	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」／「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」／「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」「自治体における産・公・民の三者協働」「女性の労働政策」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	4限はしっかり勉強する人向けです。教科書と判例をまとめて発表します。先生がこなしで説明してくれるので、問題集や参考書で苦手だったところも分かるようになります。自治体政策の現地視察もできます。5限は自分の興味のあるテーマで発表とディスカッションします。今年のテーマは「日本の学生運動」「LGBTの権利」「中国の人権」「育児介護休業法」などです。ディスカッションはかなり盛り上がります。ディスカッションすることで、留学生などいろいろな人の考えを知ることができました。

担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6412
出講日	月・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	EIC101、基礎ゼミナール、英語表現 A、英語表現 B、ESP F、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	月3時限・水2時限、金3時限 Please read this page before you come, and prepare specific questions.
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is "Culture in Media," and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least a level 3 English class membership (EIC201) is strongly recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	ESP F, debate and discussion English electives
定員	13
選抜を行う必要性が生じたときの方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by participating in the Language Garden lunch chats and reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo

担当者名	黒沢 直樹 (くろさわ なおき)
e-mail アドレス	nakuro96@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6411
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	木曜日 4限・5限
担当科目	[春学期]ホテルサービス論、キャリア形成B、国際観光と起業、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅢ、 応用演習、新入生ゼミ [秋学期]ホテル事業論、ホテル・レストラン会計、専門ゼミⅡ、専門ゼミⅣ、基礎ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	月曜日昼休みまで、水曜日昼休み以降、木曜日昼休みまで (メールで確認の上、訪問してください)
ゼミのテーマ	ホテルマネジメント及びチェーンホテルオペレーション
ゼミの内容・メッセージ	日本経済再活性化と地方創成に向け、政府は「観光」を基幹産業に育てていく強い意向を示しています。ホテルを中心とした宿泊産業は、その中核となるものです。国際的ホテルチェーンを含む大手ホテルの経営や運営に関する調査・研究を通してホテルを理解するとともに専門知識を身に付け、将来に備えましょう。
ゼミの進め方	各ホテルチェーンの对外発表資料や文献などから対象とするホテルチェーンを選択し、研究、調査、発表を行う。実務家教員として、かつての人脈を活かして横浜・東京などのホテル見学や現役ホテルエ (総支配人を含む) へのヒアリングなども実施したいと考えている。ゼミ合宿実施も含め、ゼミ生と共に考えながら進めて行き、ゼミ生には実社会で役に立つ知識・経験を得てもらいたいと考えている。
留意事項 (Requirement など)	ホテルが好きで、卒業後、ホテル関連の職業に進みたいと希望する人を優先する。チームワークが基本なので協調性があり、且つ主体的に責任を持って活動できる人が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	特にありません。
代表的な卒業論文のテーマ	ゼミ卒業生がおりません。

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	春学期：エアラインビジネス論、ホスピタリティ人材開発ほか 秋学期：交通事業論、エアラインサービス論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	原則、出講日の月・水・木の空き時間 ※詳細は後日研究室前に掲示するので確認してください。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通（バス・タクシーなど）などの交通機関や、空港・道路といった交通インフラなどを研究対象としています。各交通機関の個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境、地方交通の維持といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ議論します。
ゼミの進め方	〔3 年次〕 春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。夏休みにはゼミ旅行を実施し、交通事業者への訪問などを通して知識を深めます。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。こうした勉強を通して、3 年次終了時までに各自卒業論文のテーマを決定することを目標とします。 〔4 年次〕 春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	3 年の夏休みに実施するゼミ旅行では一定の費用（最低でも 6～7 万円程度）がかかります。また、これ以外にも空港見学等で交通費が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接を実施します。ゼミで学びたい内容やゼミへの貢献の可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「日本における自転車利用促進の可能性について ～自転車大国オランダの政策から学ぶこと～」 「鎌倉地域の交通渋滞を解消するには」 「自動運転システムの可能性と我が国の課題」 「仁川空港が急成長した理由と今後の課題 ～成田空港との比較～」 「国内 LCC の将来について」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	・ 鉄道系・航空系に興味がある人は今度は学問的に学んでみませんか。交通系に興味があるけれどやりたいことがたくさんある diversity なゼミです。厳しそうな一面のある先生ですが、厳しいイメージが飛んでいくときもしばしば...。待ってます！（ゼミ長より） ・ 交通系の話題を中心に調べ物や発表をしたり、空港見学に行つて貴重な体験をすることも出来ます。ゼミの雰囲気はすごく穏やかで、すぐに先生ともみんなとも打ち解けられ、とても居心地のいい環境です！

担当者名	椎野 信雄 (しいの のぶお)
e-mail アドレス	shiino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6314
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4限目(5限目)
担当科目	[春学期] 国際学入門(1)、交流文化論 B(3)、現代思想(5)、ジェンダーと教育特論(大学院) [秋学期] 国際学研究 B(4)、ジェンダーと国際社会(6)、市民社会・ガバナンス特論(大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールでアポイントメント(訪問予約)をとってください。 研究室@6314 のドアのボードを見てください。オフィスアワー(木・昼休み)
ゼミのテーマ	<社会>とは何だろう。<社会>とはどのように作られてきたのだろうか。<社会>は、これからどのように作ることができるのだろうか。グローバル化する社会・国際社会・社会に貢献する、この<社会>とは、私たち一人ひとりの日々の日常生活に、隅々にまで影響を与えている実在なのです。<社会>とは何だろう、を自分なりに理解して、これから、自分の日々の日常生活を送って行くための知恵を身につけて、「社会人」「市民」として社会に生きていくこと。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミは、国際学入門(1年)や国際学研究(2年)の学びを踏まえて、グローバル社会・国際社会・市民社会について、<社会>とは何だろう、を社会学の視点からアプローチします。社会学の視点とは、<近代社会>を対象として、<近代社会>の中で生起しているあらゆる諸現象について、自分の日常生活がどのように影響を受けているのかを理解する視点のことです。自分が興味を持っている現象について、「正解」ではなく、自分なりの理解を深め、日常生活で実践することがゼミの目標です。
ゼミの進め方	①ゼミの進め方は、私の他の授業のやり方と基本的に同じです。社会学の視点から<社会>で起こっている諸現象とは何か、それがどのように自分の日常生活に影響を与えているのか、を理解することを基本目標とします。それを通して、あなたにとっての社会の過去・現在・未来について考える力を養い、日常生活において常に考える力を使えるようになることが到達目標です。他のゼミ生のコメントについて質疑応答ができ、ディスカッションを通して、他者の問題意識を共有する力を深め、自分の社会観を考え直し、<社会>の諸現象について問いを沢山持って実践する(地球)市民になっていきます。 ②現代社会のあり方を理解するための課題(研究テーマ)を自己決定し、4年次に卒業論文にまとめます。「大学」的な言語コミュニケーション能力(読書聞話・思考・発表・プレゼン・ディスカッション)を習得し卒論を仕上げます。 ③映像/アート・ソーシャルツアー・ダークツーリズムも適宜行ないます。
留意事項 (Requirement など)	「映画上映」の開催実施に積極的に参加してもらうことがあります。 椎野ゼミナール・サイト(http://www.bunkyo-shiino.jp/)を参照。
ゼミ履修に望ましい科目	履修科目において「覚えること」ではなく、「知る」「気づく」「考える」「アンラーン」することの面白さ・大切さを理解したことのある人が望ましい。
定員	11人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。ゼミの内容の共感度を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	決定時から3月までの課題についてオリエンテーション(学習指導)をします。
代表的な卒業論文のテーマ	現代日本の大学生の存在はどのようなものかー大学教育へのサービス・ラーニング導入を通しての考察ー
所属ゼミ生(先輩)からの一言	何をやりたいか決まっていない人は椎野ゼミへ!これまで余りちゃんと勉強してこなかった人、椎野ゼミで学び直せます。みんなと一緒にというのが嫌だという人はぜひ椎野ゼミへ。なんでも学べます。授業と違い先生は、ゼミで話すときと気さくでおもしろい方です。1で話しても10で返ってきます。世の中のギモンについてディスカッションしながら楽しくやってまーす。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜4限 (3年)、木曜5限 (4年)
担当科目	国際理解とコミュニケーション(2)、異文化理解演習(2)、応用演習(3)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)、英語とメディア(6)、EIC301
研究室を訪問できる時間帯	月、火、水の昼休み。火、木の5限後など (事前にメールで連絡願います)
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力 (特に英語) 養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法 (即興、スピーチ、朗読、創作劇など) に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル (全国各地の大学が参加) での創作劇発表。ITを駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。オープン・キャンパスにも積極参加。海外の大学 (台湾・タイ) との交流も実施 (有志) し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマの基礎 (理論と実践) と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項 (Requirement など)	聳塔祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのための練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。オープン・キャンパスにもゼミの一環として参加します。授業外での練習や準備があります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語オーラル・コミュニケーション論、英語とメディア
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類 (志望動機) と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。毎週、大学近くの学童保育で英語の楽しさを伝えていきます。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。 とにかく英語で何かやりたい! というやる気のある人におすすめです。 ※聳塔祭で劇等のパフォーマンスを上演しますので、興味のある方は是非ご覧にいらしてください。

担当者名	菅原 周一 (すがわら しゅういち)
e-mail アドレス	suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜4限(3年生)、5限(4年生)
担当科目	新入生ゼミナール(1)、基礎ゼミ(2)、応用演習(3)、日本経済論(3)、金融論(4)、国際観光と会計(4)、国際金融論(5)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、月、水、木の昼休み、もしくは、月、木の3限。(訪問の際はメールで予約してください。)
ゼミのテーマ	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業(エアライン、ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む)に関する調査・研究
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、将来、日本経済を元気にしてくれる観光業を中心とした企業を探し、応援するための調査・研究を行っています。この調査・研究を通して、社会人になるための基礎力、専門知識を身に付けることができます。また、ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができます。
ゼミの進め方	3年生の春・秋学期で企業評価に関する基礎的な知識を習得し、さらに外部機関が提供するイベント(本年度は日経ストックリーグ)にグループ参加をしながら、実践力を身に付けます。 4年生の春学期からは卒業研究の検討を進め、ゼミ内でディスカッションをしながら内容の充実を図り、秋学期に卒業論文執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に積極的であること、やる気があることが重要です。海外ゼミ合宿も原則として全員参加して頂きます。
ゼミ履修に望ましい科目	3年生までに「国際観光と会計」の授業を受講することが望ましい。
定員	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「LCCによる日本の経済効果」、「Jリーグができる地域貢献」、「御三家と海外のホテルの運営形態の比較について」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	菅原ゼミで学ぶ内容は自分の将来の役に立つことばかりです。観光業のみでなく、幅広い分野の企業を知ることができます。そのため、将来の自分の姿が決まっていなくても大歓迎です。就職活動の準備を早くから少しずつ行うなど、就活に向けた活動も積極的に行なっています。勉強だけでなく、BBQや夏合宿、クリスマスパーティーなど、楽しいイベントもたくさんあります！優しい先生の下で、ゼミ生と助け合いながら勉強に取り組み、遊ぶ時は全力で楽しむ、メリハリのある充実した活動をしています。理解学科の人も毎年いるので、学科に関わらず、まずは、誰でも一度遊びに来てみてください！ゼミ室でお待ちしています！

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6212
出講日	火、水、金 (秋学期)
ゼミの開講時間	金4
担当科目	経済学、(産業組織論)、(観光企業の競争戦略)、(観光ビジネスの経済学)、日本の企業と社会
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	「食う・寝る・遊ぶ・観る」の観光経済学
ゼミの内容・メッセージ	江戸時代から現代までの日本の観光産業、とりわけ『食う(飲食)・寝る(宿泊)・遊ぶ(旅行など)』の諸産業・企業を経済学の視点から学ぶ。和食が今日の形になったのは江戸時代の『寿司、天ぷら、蕎麦』がファーストフードとして提供されたことに始まり、さらにお江戸・日本橋を起点とする五街道沿いには旅籠(日本旅館)が宿場町ごとに整備され、おもてなしの精神が磨かれていきました。また飛鳥山公園や遊園地の浅草花屋敷も作られ、豊かになった江戸の庶民は余暇を楽しめるようになりました。 現在、星のリゾートによる地方旅館の再生、HIS のロボット接客の「変なホテル」と地方テーマパーク再生、紀尾井町ガーデンプレイスという総合宿泊・飲食施設のオープンなど2020年オリンピック前に、外国人観光客も激増して日本の観光産業が活性化しています。そのような状況を踏まえ、私も2016年から2018年までの食と農をゼミのテーマとしましたが、昨年度より、観光学科学生のニーズに鑑みて、オリンピック並みに4年ぶりに『食う・寝る・遊ぶ・観る』全てをテーマにすることにしました。
ゼミの進め方	学生の自主的な発表を重視します。発表するテーマについては、出来るだけ観光産業などの現場まで調査に行き、文献などで収集したデータを現場の事実と合わせながら、問題の改善策やイノベーション戦略などを学生が自主的に考えられるように訓練します。 2018年は3月～9月までに、ゼミ学生の卒論テーマに合わせて、山梨県の甲府ほうとう・石和温泉桔梗屋工場、横須賀カレー・戦艦三笠・ペリー記念公園、宇都宮餃子・大谷石・新栃木スターバックス、2019年1月、日清カップヌードルミュージアム、中華街のサンマー麺などの現地調査に行きました。
留意事項 (Requirement など)	2020年もだいたい一学期に国内のみ2回程度の調査旅行(土曜日から日曜日の日帰旅行で早朝から夜までの調査)を予定しています。2020年夏休みか冬休みに、沖縄観光の更なる活性化を考える3泊4日ツアーを実施。LCC運行上の問題、ホテル人材の不足、交通渋滞、歴史や伝統文化のマーケティング不足、産官学連携の問題、国際通りの刷新など、「食う・寝る・遊ぶ・観る」観光を实践しつつ、課題解決型集中学習をします。
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
代表的な卒業論文のテーマ	代表的な卒論のテーマは、 「ディズニーとその他のテーマパークの経営比較」(2016年3月卒業生) 「こら山反射炉とペリー」「ペリー来航とみなとみらいの形成」「富岡製糸場」「川越の町づくり」「湯河原の温泉街」等(2017年卒業生) 「横浜ベイスターズの躍進の経営的な秘密」「中国人爆買いの終焉」「日本の真珠養殖の歴史」等(2018年卒業生) 「B級グルメと地域活性化」(2019年卒業生)

担当者名	孫 美幸 (そん みへん)
e-mail アドレス	sonmihen@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6312
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	上記出講日とゼミ生の予定で調整します。
担当科目	新入生ゼミ、応用演習、基礎ゼミ、専門ゼミ、 国際学入門、開発教育論、国際理解とコミュニケーション、 多文化交流特論（大学院科目）
研究室を訪問できる時間帯	メールで連絡をとってから訪問してください。
ゼミのテーマ	多文化共生社会における多様な学び
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、平和教育、多文化共生教育、ESD（持続可能な開発のための教育）、ホリスティック教育などを切り口に、様々な文化背景をもつ人々に寄り添いながら、人が人を支え育み、共に成長する多様な学びのあり方を考えていきます。基本的にはテキストの購読、担当者による発表、ゼミ参加者によるディスカッションを行います。どのような進路に進んだとしても、それぞれの場所で多文化共生社会に向けた学びの場をつくり、異文化理解を進めることができる発信者となっていく力を身につけたいと願う学生を歓迎します。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生春学期は、異文化理解をキーワードにテキストを購読、発表します。中学校における多文化共生教育実践の企画や実践にも関わります。 ・3年生秋学期は、自身の研究テーマを決め、卒業論文の基礎固めをしていきます。ESD先進校の自由学園の見学や持続可能な社会をテーマに活動している方との交流などがあります。 ・4年次は昨年度までの研究をもとに、卒業論文の執筆を行っていきます。就活などの予定とも調整しながら随時フィールドワークへの参加も歓迎します。 ・夏季には、海外の多文化・多民族社会を直接見て、聞いて、食べて、楽しむフィールドワークを実施したいと思っています。毎年行先や期間などはゼミ生と相談して決めます。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動として年間で行っている異文化理解や教育をテーマにしたフィールドワーク、国内（2019年度は京都の中学校での多文化授業参加と東京の自由学園見学を実施）や国外（2020年度は夏季にマレーシアペナン島で実施予定）、自身の予定調整や経済的なことを準備した上で、基本的には参加してください。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類と面接で選抜します。関心のあるテーマとの合致性やゼミ活動への参加意欲などで判断します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後、3年生、4年生と一緒に顔合わせ会を行います。その際、4月までにやっておくことなど予定をお話しします。
代表的な卒業論文のテーマ	（まだ卒業したゼミ生がいないため3年次レポート課題） 「多文化授業の在り方と可能性」「エジプトの女性教育発展」など、「教育」、「異文化理解」、「コミュニケーション」をキーワードにテーマを決めました。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミを通して異文化に触れる楽しさを知り、ゼミでの経験を教育の現場でいかしたいと素直に思えました。（理解3年）。 ・日本へ多くの外国人が到来し、他国の文化を理解する必要性が高まってきた。そして、ゼミでそれらの文化を勉強し、また自身が関心のある分野を研究することができる。今まで気にしていなかった他国の事情も勉強できる。課外授業で京都へ行き、日本の中学生の異文化理解に関する授業もあって、とても楽しく参加できました。とてもいいゼミであると感じました（観光3年）。

担当者名	千葉 克裕
e-mail アドレス	ch1ba@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL102・104, EIC C, 英語科教育法Ⅲ・Ⅳ, 英語学概論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、オフィスアワー(火4限・水2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」
ゼミの内容・メッセージ	<p>まずは自分の英語をしっかりと磨き、その過程を通して「英語を身につける仕組み」について考え、その理論を生かしてさらに自分の英語力を高めたり、教えたりするための知識と技術を身につけます。</p> <p>読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法(マインドマップ)など「学び方を学ぶ」ことにも重点を置きます。研究テーマや将来の仕事にかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。</p> <p>高い英語力と科学的根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、将来英語を使って仕事をしたい人や理論に基づいた英語教育をしたい人の参加をお待ちしています。”自ら学び、ものを考える人になろう！”</p>
ゼミの進め方	<p><u>3年春学期：基礎的研究力の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方(読書法)とまとめ方・発表の仕方 ・新書をたくさん読みながら読書力と言語学の知識を蓄える ・語彙力と文法力の強化 <p><u>3年秋学期：研究のためスキルアップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2言語習得の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 ・文献研究の方法(文献検索・研究カード整理法) ・先行研究レビューとゼミ発表・研究テーマの決定 ・発音矯正 <p><u>4年：卒業論文の作成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究デザインの決定とデータ収集・分析と論文作成
留意事項(Requirementなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の研究室訪問で十分な説明を受けるようにしてください。 ・ゼミ合宿有り・Mindmap®講座は要教材費
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など
募集人数の上限	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	TOEICを受験し、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「EFL多読学習者の読解の流暢さについての考察」「動機づけの原因帰属理論」「等価的語義理解を避けるための語彙学習」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>私たちのゼミは、やるときはやる！遊ぶときは遊ぶ！とメリハリをつけ、毎日楽しく活動しています。ゼミでは、発表や意見交換の場が多く、積極的に自分の意見を伝えたり、お互いの学びをシェアしたりしながら、成長できる場になっています。千葉先生は、英語の質問や学習方法、各々の卒論のテーマについて親身に相談に乗ってくださるとても優しい先生です。また、多読学習も積極的に行っています。言語や英語に興味がある方、教員を目指している方、ぜひ千葉ゼミと一緒に成長しましょう。多読100万語もTOEIC700点も夢じゃない！</p>

担当者名	那須 一貴 (なす かずたか)
e-mail アドレス	knasu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6409
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金曜日 4限 (3年生)、5限 (4年生)
担当科目	国際観光とビジネス、プロジェクトマネジメント、観光ビジネスプロジェクト演習、経営学入門、長期インターンシップ事前研修、キャリア形成基礎
研究室を訪問できる時間帯	研究室の扉に在室時間が書いてあります。どうぞ気軽に訪問してください。
ゼミのテーマ	経営管理、マーケティング、ブランディング、コンサルティング
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、「即戦力ビジネス・パーソン」を目指します。即戦力ビジネス・パーソンとは、ビジネスに関する知識はもとより、自ら課題を見出し解決することができる能力と、リーダーシップ、協調性、高度なプレゼンテーション能力を身に付けた人材です。新規事業プランの策定、企業の課題解決プロジェクトなど実践的な活動への取り組みを通じて、卒業後にビジネスクリエータとして活躍できる力を養います。卒業論文としては、ビジネスプランまたは学術的な論文の執筆をすることができます。合宿等については、ゼミ生と相談して決めたいと考えます。
ゼミの進め方	① 3年次は文献購読に基づく学生による討議と企業分析発表を行います。サブゼミとしてプロジェクトや新規事業プランコンテストの準備活動を行い、実践力を高めます。3年後期には財務会計の基礎を学び、数字でビジネスを考える力を身につけます。 ② 4年次はビジネスケースを用いたケーススタディを中心に行います。様々な企業の事例をゼミ生とともに議論しながら分析していきます。この活動を通じて、学んだ知識を実践でどう使うかを身につけます。同時に卒業論文執筆をおこないます。
留意事項 (Requirement など)	プロジェクト活動が多いため、サブゼミ (課外活動) への参加が求められます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	全員と面談をおこないます。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションをおこないます (期日は別途連絡いたします)
代表的な卒業論文のテーマ	経営戦略、マーケティング、ブランディングに関する研究、新規事業プランなど。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	那須ゼミナールでは実際の企業の方々とのコミュニケーションや複数のプロジェクトを経験し、より実践的な社会人スキルや知識を身につけていきます。また、チーム単位での活動が多いからこそ、ゼミ生同士の仲が良く、先生との距離が近いことも特徴です。忙しくはありますが、「那須ゼミに入ってよかった」必ずそう思えるゼミナールです。本気になって自分がやりがいを感じることでできるものを見つけたい!と考えている人にオススメのゼミナールです。(4年ゼミ長) 那須ゼミナールでは、プロジェクトを通して観光や経営について学びます。仲間と互いに刺激し合いながら、自分自身を見つめ直し、成長することができます。そして何より、向上心のあるステキな仲間に出会えます。たくさん悩んで、たくさん考えて、たくさん笑って充実した大学生活を一緒に送りませんか? (3年ゼミ長)

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限
担当科目 (セメスター)	国際理解論 (2) 地域研究Dアフリカ (3) NPO とボランティアの理論 (3) 開発と国際協力 (4) 資源と国際協力 (4) 国際協力実地演習
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (終日:要連絡)、火曜日 (1限、昼休み、4限、5限)、水曜日 (昼休み)、木曜日 (1限、3限) ゼミ見学は木曜日 4限、5限。ゼミ選択期間中はこれ以外にも研究室訪問が可能です。6306 研究室前に日程表を掲示します。
ゼミのテーマ	「持続可能な世界の実現」がテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	2015年に国連は2030年までの「持続可能な開発目標」を採択しました。これは開発途上国と先進国がともに目指さなければならない目標ですが、その成否は私たちの日常生活のありかたに直接結びついています。ゼミ生の学びたいテーマの設定は自由です。貧困、格差、福祉、子ども、経済、貿易、国際関係、移民と難民、気候変動、環境汚染、防災、災害復興、地域振興、その他いずれの分野も最終的な課題は「持続可能性 sustainability」に行きつきます。理想論だけではない具体的な解決策の提示を目指します。みなさんの学びたい分野やテーマを通じて考えてみませんか。また、プロジェクトの計画と評価、統計、参加型開発など、社会に出てから必要な汎用スキルを身につけ、実践的なチェンジメーカーになることを目指します。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは持続可能性の基本的な考え方を途上国の現実を通じて学びます。農村の開発の具体例を使って、ロールプレイング方式で生活の向上について実習を行います。秋セメスターでは、ゼミ生の関心の領域について、研究発表とディスカッションを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、討論を続けながら、各ゼミ生の卒業研究のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業研究論文を書き上げます。毎年夏に、任意参加の「インド・スタディー・ツアー」を実施し、途上国の現実を学びます。学外のイベント参加なども積極的にを行っています。聳塔祭へも参加します。また被災地の支援活動も行っています。
留意事項	インドスタディーツアーへの参加は義務ではありません。ただ、できれば参加していただくとありがたいです。
ゼミ履修に望ましい科目	2年秋セメの「開発と国際協力」「資源と国際協力」を可能な限り履修してください。
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接で選抜します。議論やゼミ活動に積極的に発言できるかどうかなどが選考基準です。
ゼミ受入決定者への指示	決定したら、3,4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから一緒に学びたいと思います。
代表的な卒業論文のテーマ	「インドの最下層カーストと社会統合」 「持続可能な資本主義—これからの世界」 「災害に対する国民意識と草の根防災の可能性—フィジーの事例」 「外国語指導助手 (ALT) の役割と効果—日本とインドネシアの比較研究」 「エシカルファッション—持続可能な衣服」 「子どもの貧困の対策と現状—行政と NPO の結びつきの重要性」 「国境なき海洋プラスチック」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	林研究室では、国際開発協力を中心に「持続可能な社会」をテーマとして活動しています。国際協力の基礎知識から貧困、ジェンダー、経済、Nudge 理論、教育、子ども、環境などゼミ生が興味を持った分野を選び、様々な視点から研究を行っています。また、毎年夏にはインドでスタディーツアーを行っており、実際に開発の現場を訪れて、途上国の貧しい地域が抱える課題を現場で学んでいます。興味がある方は、是非研究室までお越しください! (3年 伊豆 啓汰)

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 2 限または水曜日 2 限 (要相談)
担当科目	新入生ゼミ、応用演習、生態系と人間、環境と経営、 観光と国際協力、国際観光とデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休みと授業の無い時間帯 (メールにてアポイント必要) *ゼミ説明会を実施します。説明会日時は 6417 のドアに掲示予定
ゼミのテーマ	*サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み *ヘリテージ・インタープリテーションの技術と取り組みの精神の学び 「知る→調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策」
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミのインタープリテーションは、観光地のヘリテージ (自然・文化遺産・生活慣習) に対し地に足が着いた立場で学生自らが深く理解し、人のガイドやメディアで伝え、さらにそれが持続可能な形でまもっていかれるように援助する活動です。これは精神的な文化度の進んだ先進国で発達したものです。ヘリテージに付加価値を与えるだけでなく、観光地に人を惹き付けるマーケティングの手段としても利用できます。インタープリテーションのターゲットは、ある程度の知識や社会的地位、生活レベルの高い人々であるのが現状です。それは、ヘリテージを深く知り、守ろうと思う人々は、毎日の生活にある程度の余裕があることが必要とされるからです。この人々をお客様にするためには、フィールドを持って専門的かつ誠実にヘリテージを知り尽くす姿勢がもっとも大切であり、これをゼミの学びの精神としています。フィールドは、バリ島での活動が主です。現地の自然環境、文化、生活慣習、貧困などの多くの課題を直接見て知り、本当のバリ島の理解者を増やす流れを作るために、Community Based Tourism のビジネス化に取り組みます。日本ではあまり浸透していませんが、地球と観光発展にとってサステイナブルなツーリズムと地域産業を一緒に育てていきましょう！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論]=授業で受講 [インタープリテーション実践]=ゼミ活動 * 3 年時 : 5 月軽井沢合宿 6 月 7 月バリ島合宿準備 8 月バリ島合宿 12 泊 *4 年時 : 卒論文取組 : バリ島現地調査・社会調査を用いた卒業論文を書きます。
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、体力のある学生さんをお待ちしています。本ゼミでは全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します(15 万円程度)。他に軽井沢合宿 (2 万円) と野外活動交通費数千円。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)はゼミ生全員 3 年時に必ず受講。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。
ゼミ受入決定者への指示	1 月に顔合わせ会の実施。3 年生になる前の春休みに 1 泊の合宿もしくは課題。
代表的な卒業論文のテーマ	グリーンツーリズムビジネス化研究・地場産業の商品開発と販売手法研究・文化継承意識調査・メディアツールの制作研究など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	黛ゼミナールは、1 年を通して様々な課外活動が行われるとても活発なゼミナールです。夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになりました。黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。自然や人との交流が好きな学生におすすめしたいゼミナールです！

担当者名	丸山 鋼二 (まるやま こうじ)
e-mail アドレス	maruyama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6408
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	【春学期】 新入生ゼミ、応用演習、中国語 I 【秋学期】 近現代史基礎、外国史A、現代中国論、中国語 I
研究室を訪問できる時間帯	出校日である火・水・金曜日の昼休み。秋学期は火曜の4限と金曜の4限は授業がないので、研究室にいる可能性が高い。上記のアドレスにメールするか研究室のドアにメモを残すかしてアポをとることが望ましい。
ゼミのテーマ	東アジア日中韓三カ国の関係(peace and war in East Asia)を考える。
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの中心的なテーマは、東アジアの日本・中国・朝鮮韓国の関係です。経済的な相互依存関係が深まっているにもかかわらず、領土問題や戦争責任問題等で摩擦がしばしば発生する日中・日韓関係はどうすれば摩擦を少なくし友好を深めることができるのかを考えていきます。そのためには、日中韓関係の現状とこれまでの歴史について学ぶことが必要です。が、同時に、各国の主張や言い分・世論を知るだけでなく、第三者的視点＝国際的視野から東アジアにおける「歴史的和解 reconciliation」がどのように見られているのかを知ることとても重要です。また、東アジア三カ国の歴史を知る study tour にチャレンジします。「現在の世界と日本を知り、これからの社会を生き抜いていこう」という意志を持った学生諸君の参加を期待します。留学生の皆さんも歓迎します。サブテーマは日中関係、日韓関係、中韓関係、北朝鮮問題、香港・台湾問題、現代中国論、日本外交論、日中・日韓比較文化論、国際和解学(平和学)等です。
ゼミの進め方	①3年次はゼミのテーマに関する基本的文献の購読と各自の発表に基づく議論が中心となります。②夏休み等に「東アジアの歴史と現在を知る旅」(China study tour や Korea study tour 等)を行なう。③4年次は各自の問題意識と知的関心に基づき、卒業論文執筆が中心です。日本語で執筆、発表は英語・中国語・韓国語・日本語が目標です。
留意事項 (Requirement など)	授業の予習はもちろんです、他のゼミと同じように授業時間外の課外活動があります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語音声学、教育原理か特別活動論、紛争と国際協力、平和学、日本の地理と歴史、日本の政治経済、現代思想(「働くこと」)、地域研究(東アジア)、現代中国論などを推奨。各自の問題関心と将来の希望に基づいて履修指導します。
定員	海外研修旅行を予定しているため、12名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科や領域に関係なく希望者全員と面接して選抜します。面接では、自分の関心のあること、いま感じていること、どんなゼミにしたいか、将来の希望、自己アピールなどをお聞きします。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後、ゼミ開始前の学習の指示等を行いません。実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	各自の問題関心に従って卒業論文を書いてもらいます(SDGs に沿ったものを推奨)。代表例:「戦後補償問題をどのように解決するか」「東洋医学について考える」「台湾独立問題」「インドネシア華人問題」「祖母の満洲時代」「チベットの行方」「中国の人口問題」「日中韓の教育と、そこから見る歴史」「東アジアの環境協力」「日本のメディア記者クラブのあり方について」「中国の歴史的過程と新民主主義」「非営利組織のマーケティング」「中国の環境問題(日本と中国のゴミ処理)」

担当者名	宮原辰夫 (みやはらたつお)
e-mail アドレス	miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6405
出講日	水・金曜日
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	春学期：政治学入門、3・4年専門ゼミ 秋学期：政治学入門、地域研究 (南アジア)、地域研究特論 (大学院)、3・4年専門ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	基本的には、ゼミ生と相談して決めます。
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの内容は、ゼミ生の興味・関心によって変わります。社会の変化に沿った内容にしています。今年は、IT・AI が社会にどのような変化をもたらすのかについて、ゼミ生と一緒に勉強しています。
ゼミの進め方	3年の春学期は、プログラミングの勉強 (ホームページの作成) 3年の秋学期から、各自の研究テーマを決め、インターネットやスマートフォンの機能を使い、テーマに関する情報収集・分析などを始めるつもりです。
留意事項 (Requirement など)	特にありません。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	「大隅半島の DMO (観光地域づくり法人) の取組みと今後の課題」「廃校の利活用の実態と新たな提案」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	基本的に、ゼミ生は自分の好きなテーマについて自由に主体的に活動できます。先生はその主体性を尊重し、十分にサポートしてくれます。 それが宮原ゼミの特色です。

担当者名	本浜 秀彦（もとはま ひでひこ）*2019年度は高橋順子
e-mail アドレス	motohama@shonan.bunkyo.ac.jp *今年度英国で在外研修中の担当教員に、まずメールで問い合わせください。ゼミ訪問などは高橋先生が対応します。
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木4限、5時限
担当科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本ポップカルチャー論」、「日本の伝統文化」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	お昼休み時間など（詳細は研究室のドアに掲示します。）
ゼミのテーマ	国際日本研究
ゼミの内容・メッセージ	多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、英語で発信する、というのがゼミの目標です。目指すは、究極の「雑学（＝教養）ゼミ」！（“プロジェクト”に比重を置くゼミではありません） *受験時、「国際日本学部」、「グローバル（国際）教養学部」、「文化構想学部」などに関心があった学生は、ぜひ本ゼミの検討を！
ゼミの進め方	「日本」の捉え方は人それぞれ、また「日本」への学問的なアプローチ方法もさまざまなので、卒論のテーマは、基本的には（文学研究者である私が指導できる範囲で）何を選んでも構いません。 とは言え、その間口の広さが、ゼミ選択のミスマッチにつながりかねないので、お互いの幸せのために、以下の点に注意してください。 ・担当教員は、文学およびビジュアル文化（マンガ、アニメ、映画、絵画、浮世絵など）を幅広くカバーしていますが、いわゆる“オタク”的な興味を持たず（しかも隠れ“体育会系”のスポーツ好き！）、むしろ社会問題に強い関心があり（新聞記者の経験もあり）、文化や芸術を、社会との関わりや歴史の文脈の中で考えています。 ・最近の研究の関心は、物語と視覚文化（ヴィジュアルカルチャー）の関係性にあるため、現代アートに興味がある学生は大歓迎。 ・また、「海」や「島」の文化についての研究もおこなってきたので、ハワイや沖縄、湘南の文化などを、メディアとの関わりやイメージの観点から分析したい学生の関心に沿うはずです。 *メッセージ* 「失敗したこと・負けたこと・できなかったこと」を直視することから、人の成長は始まります。要領の良さや、見かけのコミュニケーションのうまさで勝負するのではなく、自分のやりたいことにむけて、努力し、継続する意思のある学生にぜひ来てもらいたい。若い感性や輝く（あるいは秘めた）個性との出会いに、大いに刺激を受けながら、指導にあたるつもりです。
留意事項 (Requirement など)	3年生対象のゼミ合宿を予定（全員参加を原則とします。）
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など
定員	11人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	追って連絡
代表的な卒業論文のテーマ	アニメと聖地巡礼、カワイイは正義！～化粧文化論、現代社会と神社～航空業界と若者文化からの考察、ドキュメンタリードラマと方言、女子トイレ進化論、コンテンツツーリズムとしての文学散歩 など

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	yamazaki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	[春学期] 哲学、倫理学、キリスト教入門、 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール [秋学期] 哲学、倫理学、キリスト教文化と社会、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (お昼休み、4 時限目) 木曜日 (お昼休み、4 時限目、5 時限目)
ゼミのテーマ	世界の文化と宗教を哲学する
ゼミの内容・メッセージ	世界の文化とその発想法を理解し考える力をつけることを目指し、宗教(主にキリスト教)と哲学について考えていきます。 これまでの3年次生共通テキストは、『ソフィーの世界』『キリスト教の教え』『4つの愛』『選択の自由』『嘘の人間学』『真理論』などです。読書を楽しむだけでなく、読書を通じて、著者とゼミ生とそして自分と対話してほしいです。 自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。
ゼミの進め方	1. 3年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストをゼミ生が交代で発表。哲学と宗教の本の読み方を習得します。 この間の成果は、3年の秋に、簡易製本の小冊子にまとめます。 2. 3年次秋学期の後半以降： 各自のテーマに沿って発表を進めます。「なぜ」という問いを含む内容であれば、哲学やキリスト教の内容でなくても、O.K.です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	山崎ゼミでは、ゼミ生同士のコミュニケーションを大切にしています。楽しいゼミにしましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談。意欲と適性を確認します。
ゼミ受入決定者への指示	入ゼミ決定後、全員で一度集まりましょう。日程は、こちらから連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「時間の意味」 「宣教師と東洋布教—布教政策に見る異文化理解—」 「日本人の宗教観に関する一考察 —タイとフランスの宗教事情と比較して—」 「ナチドイツ支配下におけるユダヤ人とキリスト教会」 「人は他者を愛せるか」 「イスラム金融では何故利息が禁じられているか」 「鬼の正体—鬼物語とその本質—」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	山崎ゼミでは、思想だけにとどまらない哲学を学ぶことができます。 少しでも考えることが好きな方、宗教に興味がある方、ぜひ6410へ足を運んでみてください！ (3年ゼミ生より)

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり、応用演習 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、 統計調査の基礎、国際化・情報化時代の社会学
研究室を訪問できる時間帯	火曜 (昼休み)、金曜 (昼休み) など (詳細は研究室に掲示します)
ゼミのテーマ	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～
ゼミの内容・メッセージ	まちの望ましさの実現 (自然や暮らしの環境問題をどう解決するか等) を目標に、これからの地域社会を構想します。まちづくりを、1) 市民の地域活動と地域形成 (参加と決定を含む)、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献等と関連づけ、2) 国内外の諸問題や、より身近な生活・文化の比較考察を含め、3) さまざまなまち (地域) の姿を検討します。社会学を土台に、参加者と議論しながら考えるスタイルです。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口をみつけます。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 3 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールにしています。また参加者は、プロジェクトチーム (研究班) に入ってもらいます。これは 3・4 年生合同で編成し、卒業研究にむけた研究を進めるグループです。月の最終週をこの時間とし、年度内に数回、報告会を開きます。合宿の他、社会調査や実習、他ゼミ (他大学) との交流、海外研修 (希望者のみ) を行い、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	みんなで作るゼミを目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流は、原則、全員参加です。
ゼミ履修に望ましい科目	とくに定めません。
定員	11 名 (学外での研究活動を実施する予定があるためです。)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を連絡します。 研究室のドアにも掲示するので、よく確認して下さい。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時は個別に連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「アットホームな空間を自分たちで作っていけるゼミ」です。先生からなにか押し付けられることもなく、学生主体で、進んで活動に参加し、コミュニケーションを取っています。充実した 2 年間で過ごせると思います。ゼミの学外活動にも積極的に参加すれば、授業外での学びも深まると思います。学年の垣根をこえて、みな仲がいいです。このような山田ゼミに入ってもらえると嬉しいです。

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6305
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際協力論、紛争と国際協力、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木 (昼休み) @6305 ゼミ訪問は木曜 (4~5 限) @6305
ゼミのテーマ	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード: 開発人類学、貧困、格差、社会的排除、人の移動、マイノリティ、コミュニティ
ゼミの内容・メッセージ	開発協力に限らず、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、個人は様々な制約のなかで何を大切にし、どのように生き抜いているのでしょうか。それに対して「私たち」ができることは何でしょうか。 開発協力やまちおこしを含め、他者とかがかわる際に、その地域や組織、人々について学ばなければ始まりません。本ゼミでは、学びの手法として、開発人類学をベースに、個人、地域、歴史、関係性の視点を大事にします。 本ゼミでは、一つの答えや解決策をみつけることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することに重点を置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知を深めていく学びの空間をつくっていきたくと考えます。
ゼミの進め方	3年次: 春学期は、履修者が選んだ文献を3本ほど講読し、問題提起・ゼミ履修者による討論を行いつつ、それに関連した調査・実践 (学内外) を企画・実践します。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究発表および議論を中心とします。1年を通じて、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。なお、今年度は平塚市の外国人 (難民) 集住地域において学習支援活動やフィールドワークをしながら、移民と地域形成、子どもの貧困、団地問題、市民社会活動等についての理解を試みています。 4年次: 卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について、報告をし、討論しながら精緻化していきます。その一方で、時事問題の記事等を扱い、社会人として求められるコミュニケーション力や討論の技術、ファシリテーション力などを磨いていきます。
留意事項 (Requirement など)	これまで3年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて実施しています。 <u>実施の有無や内容について5月中旬くらいから決めていきますので、一緒に検討してください。</u> 本年度は8月21日~8月29日に「社会的マイノリティへの支援と包括的コミュニティ形成の現状と課題」をテーマに子どもの保護施設、スラム地域、国際NGO関与の再開発地域、社会的企業、ムスリム集住地区にて、課題と体系的な支援のあり方 (保護、支援、自立) について聞き取りを行い、高校生や大学生を含め、同世代の若者と交流を行いました。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」「国際協力論」「紛争と国際協力」「開発教育論」「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部に関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	12人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周囲と協調して活動を進められるかどうかのポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、年度が変わる前に、顔合わせと今後のゼミの進行について打ち合わせを行います。また、毎年2月に、受け入れが決定した2年生と3年生を合わせた合宿も行い、そこで、次年度の大まかな予定を決めていきます。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	「スリランカにおける内発的発展」「食糧安全保障と日本の取り組み」 「LGBTという言葉の広がりとその背景」 「フェアトレードタウン運動」「タイにおける少数民族難民と教育」 「片目失明者の現状と今後について」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	信条は、ゼミ内でも国内外での調査活動でも、人との繋がりを大切にすることです。アットホームなゼミで、発言も多く、みんなで仲良くしています。また自分のやりたいこと、好きなことを学べるゼミです! (4年生)

担当者名	A
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	英語科目 (EIC、CALL、ESP)、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I・II・III・IV
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	外国語教育
ゼミの内容・メッセージ	2020 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の齊藤先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	B
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	国際観光論、観光ビジネス論、特殊講義 H：観光政策論、キャリア形成 A、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I・II・III・IV
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	観光学
ゼミの内容・メッセージ	2020年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	C
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	国際観光とホスピタリティ、ホスピタリティ人材開発、観光サービス、新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	ホスピタリティ
ゼミの内容・メッセージ	2020年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	D
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	国際観光とマーケティング、トラベルビジネス論、旅行法規、トラベル実務、キャリア形成 B、基礎ゼミナール、応用演習、専門ゼミナール I・II・III・IV
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	観光学
ゼミの内容・メッセージ	2020 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
ゼミの進め方	
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。